



直感で表現することを常に心掛け



市民俳句大会で市長賞
鈴木 玲子さん・69歳
平和町一丁目

第27回市民俳句大会が先月1日、中央公民館で行われた。150人が300句を出品。その中から最高賞の市長賞に選ばれた。この大会は俳句文学の振興を目的として、年1回開催されている。

「今までに2回入賞の経験はありましたが、まさか最高の賞をいただけるとは」

作品「風車 風を迎えに 子の走る」は、孫が家に遊びに来たときの情景を詠んだものだ。

「今から10年前、出産のために里帰りしていた娘に『好きなことをしてみれば』と言われて始めました」句会に入り、毎月2回活動をしている。また、友人と俳句の素材を見つけるため、外へ出掛けることも多く、市が行っている文化財巡りなど

にも積極的に参加している。

「想像で詠んだものや、説明をしているようなものは、良い歌とはいえません。見たもの、触れたものを直感で表現することが大切。相手の心の中に情景などが浮かび、何かを思わせ、考えさせることが重要なんです」

「句会では、表現がうまい、下手なども分かるようなものを作っていくたいという意欲がうかがえる。」

「今後飾らない言葉を使い、誰にでも分かるようなものを作っていくこと、皆さんと和気あいあいと楽しく活動しています。俳句の素材を探すことで、歩く機会も多くなり、健康的でぼけ防止にもなりますよ」
今は、孫の成長を見るのが一番の楽しみと幸せそうにほほ笑んだ。

被災地の救援に向けて出発

7月19日、新潟県中越沖地震の被災地へ、本市から救援物資を送る出発式を実施。プライバシーを守るついでにブルーシート、飲料水を柏崎市災害対策本部へ送りました。21日には水道施設復旧隊も現地へ。1日も早い復興に向けて協力しています。



多彩な教室楽しく参加

粕川町西田面にある隣保館を主会場に7月15日、ひとづくり・まちづくりセミナーを開催しました。世代間交流を通じ、住みよい地域をつくるのが目的。台風のため悪天候でしたが、大勢の親子連れが陶芸教室などに参加しにぎわいました。

7月23日、親子教室「ふるさとの伝説と民話めぐり」が行われました。二之宮町の慈照院など4カ所を巡り、民俗学研究者・酒井正保さんが地域の伝説や民話を紹介。参加者は目を輝かせながら聞き入っていました。



ふるさとの昔話に興味津々

明るい社会を呼び掛ける

7月は「社会を明るくする運動」の全国強調月間です。7日には、1,000人の参加者が中心市街地をパレード。買い物客らにうちわを配り、犯罪のない明るい社会づくりを呼び掛けました。



昨年度行われた第10回「詩のまち前橋若い芽のポエム」コンクールの応募作品から、小学生の部で入賞した作品を紹介。学年は応募当時のものです。

若い芽のポエム

✪入選 遠くの友達

大胡小6年

佐股 恵さん

私は、いつも思うんだ。小さいとき、群馬にひっこしてきた。

しょう子とは、

はなればなれになったから。

しょう子がいらないものたりない。

しょう子は、

なにも思っていないと思うけど

私は、とてもさみしい。

でも、たまにあえるときは、

とても、うれしいんだ。

いつも、今度は、いつあえるかな

って、

楽しみにしてる。

今まで、しょう子より大事な、

友達ができたことないんだ。

しょう子には、もう私より、

大事な友達できたかな。

今は、思いうかべるばかりだけど、

もしも、あの雲がしょう子だったら、

たくさん、おもしろい、話をしようね。

✪入選 ポチャン

中之条町立中之条小4年

滝沢 賢人さん

「ポチャン」

雨もりしていて家の中に水がおちた

「ポチャンポチャン」

早くバケツをおこなきゃ

おいている時にぼくは思った

まるでバケツが水をたすけている

みたいだった

雨もりしていたからバケツがやく

にたつた

水もやさしくきゅうじょされてい

たからきもちよさそうだった